巻頭言

安全と環境に配慮した世界レベルの研究推進を目指して

早稲田大学副総長　笠　原　博　徳

環境保全センターは1979年12月に設立され、本年で40周年を迎えます。設立当時、教育研究活動によって発生した有害廃棄物を一元管理していた大学は極めて少なく、本学がいち早く環境保全の重要性を理解し、先がけ的なセンターを設立されましたことは、大学としての見識を社会に広く示すことができた素晴らしい事項であったと考えます。現在は、コンプライアンス上の問題もあり、学内で廃棄物を無害化処理することはしておりませんが、設立当初は、大型の実験廃液処理設備を備え、さらに、廃棄物処理に従事する要員も配置し、「環境」「安全」が教育・研究推進の大前提であることを、社会に強くアピールされました設立関係者の皆様に、心からの敬意を表させて戴きたいと存じます。私は、1976年理工学部電気工学科に入学し、大学院を経て教員となりましたので、40年以上西早稲田キャンパスにて研究・教育活動をしており、学部学生時代から、環境保全センターが活動を始めておられたことを認識しておりました。40年の長期にわたり継続・発展し、現在のように化学物質を全学管理する組織にまで発展してこられました経緯を間近に触れて、改めまして、関係者の皆様に深く感謝申し上げたいと存じます。

本学では、2018年11月より、田中愛治第17代総長のもと、新理事会がスタート致しました。現在、“世界で輝くWASEDA”の目標実現を目指しまして、研究・教育・社会貢献それぞれの分野で、新たな計画がすすめられていますが、研究推進におきましては、世界に貢献できる博士人材の育成、産学連携の推進、ベンチャー育成等を中心として、それらをスパイラル的に発展させていく早稲田オープン・イノベーション・エコシステムの実現を目指しております。その実現のため、2020年4月に竣工予定のリサーチイノベーションセンター（仮）を中心とし、早稲田大学周辺で産学連携を発展させ・ベンチャーを育てていこうとする『早稲田オープン・イノベーション・バレー構想』を計画致しております。

このリサーチイノベーションセンター（仮）の低層階は、化学薬品や高圧ガスを使用する研究環境となっておりますが、設計の早い段階から環境保全センターには助言と提案が求められており、この助言・提案に基づき、センターは研究者の安全の確保とコンプライアンスの実現に向けた配慮がなされた設計がなされております。このセンターにて、どのように卓越した研究が展開されるとしても、「環境」や「安全」は、大学としての最重要事項でございます。本学は今後も、研究推進と安全確保、そして環境保全を三位一体と捉え、邁進して参りたいと思います。

今後、環境保全センターの役割は、世界における持続的研究開発目的の下、益々重要となり、周囲からの期待もより高まってくるものと思われます。全学的な安全・環境・防災教育の実現も含めまして、今後も取り組んで行くべき課題は多いと考えております。皆様からも、是非多くのご意見・ご提案を戴き、本学の環境・安全を重視した研究を推し進めて参りたいと存じます。

文末にあたりまして、設立40周年をあらためましてお祝いさせて戴きますと共に、本センターのさらなる発展、並びにセンターの活動にご尽力戴きました多くの皆様の益々のご健勝と発展をお祈り申し上げたいと存じます。